

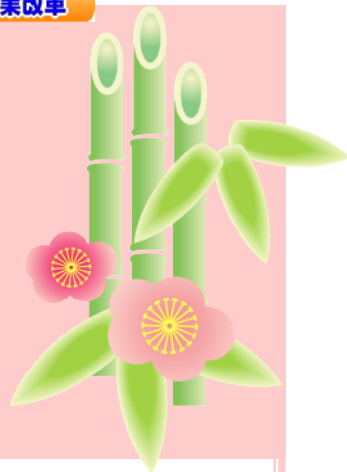


新年明けましておめでとうございます。
今年もアグリ筑西をよろしくお願ひし
ます。

県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)

Tel : 0296(24)9206

Fax : 0296(24)6979



トマト黄化葉巻病および黄化病情報交換会議を開催

筑西地域は県内有数の抑制トマト産地ですが、近年は「トマト黄化葉巻病」が多発し、問題となっています。また、新病害「トマト黄化病」の発生拡大も懸念されています。

そこで11月29日(金)、関係機関を対象に情報交換会議を開催し、20名が出席しました。

会議では①「トマト黄化葉巻病」についての多発地域や被害状況、黄化葉巻病耐病性新品種
の特性 ②「トマト黄化病」の病徴や伝搬方法 ③コナジラミ類防除の粒剤の施用時期・方法による防除効果の違いなどについて確認し合い、情報の共有化を図りました。



若手キュウリ生産者が最新の環境制御技術を学ぶ

11月27日(水)に筑西合同庁舎で、JA北つくばきゅうり選果場部会青年部がオランダ等の最新のハウス内環境制御技術を学ぶべく勉強会を開催し、20~30歳代の後継者9名が出席しました。

講師には環境測定装置メーカーの方を招き、環境制御の基本的な考え方、気孔開度を意識した湿度管理と炭酸ガスの日中施用法、日射量と比例した温度管理等の理論と実際について、講義を頂きました。

勉強会終了後は部員から「とても興味深い話だった」等、感想が多くあり、海外の最新技術を学ぶことで自分のハウスの環境測定に関心を持った様子でした。普及センターでは、産地の将来を担う若手生産者の支援を継続して行っています。



真壁高校生が、イチゴ「いばらキッス」研修

12月4日(水)に、真壁高校の就農志向者11名が、園芸研究所と生物工学研究所で、イチゴ



「いばらキッス」等の研修を行いました。この研修は、新品種の学習として、平成21年から行われており、コギク、ブドウでも行っています。当日は、栽培技術のポイントについて講義のあと、研究施設見学が行われました。高校生は、イチゴ栽培や育種方法について理解を深めました。卒業後は、イチゴ生産や進学をしていきます。

第6回農業学園「ネギ講座」を開催

12月13日(金)、筑西地域第6回農業学園として露地野菜専門講座(ネギ講座)を開催し、農業学園生11名が出席しました。今回は筑西市のネギ生産者の方に講師を務めていただき、移植機の実演、トンネル栽培のほ場、育苗ハウスの見学などをしながら、自らの経験に基づいた栽培管理技術や経営に関する話を分かりやすくしていただきました。説明の最中にも学園生からは多くの質問が挙がり、活発な情報交換が行われました。最後には講師と名刺交換する場面も見られ、学園生にとって大変頼りになる先輩農業者との交流となったようでした。



講演会開催のお知らせ

～TPP そして農政の転換 県西地域のこれからの農業を考える～

日時：平成26年1月16日(木) 13時15分～15時30分

場所：筑西合同庁舎 1階 大会議室(筑西市二木成615)

講師：茨城大学農学部 中島 紀一 名誉教授

今更聞けないTPPのこと&大きく変わろうとしている農業のこれからについて、一緒に学んでみませんか。皆様の参加をお待ちしております。

お問い合わせ先：県西農林事務所 経営・普及部門 担当：宮城
(Tel:0296-24-9206, Fax:0296-24-6979)

普及員のひとりごと ～稲毛田 優～

私が筑西に新採として就職してから3年が過ぎようとしています。毎年1年経つのが早くなっているように感じています。これは「ジャーネーの法則」という心理学で、簡単に説明すると、20歳の1年は、40歳にとって半年に感じるという説です。年を取るにつれて経験が積み重ねられ、新鮮さや強い印象が薄くなるのが心理的な要因だそうです。個人差もあると思いますが、私も少しずつ経験を積み重ねているということなのでしょうか……。

編集後記

暖房による乾燥が苦手なので「着る毛布」が気になっています。買おうと思うのですが、心地よすぎて脱げなくなるのが怖くて躊躇しています。(川崎)